

茨城県立鉾田第一高等学校 DXハイスクール

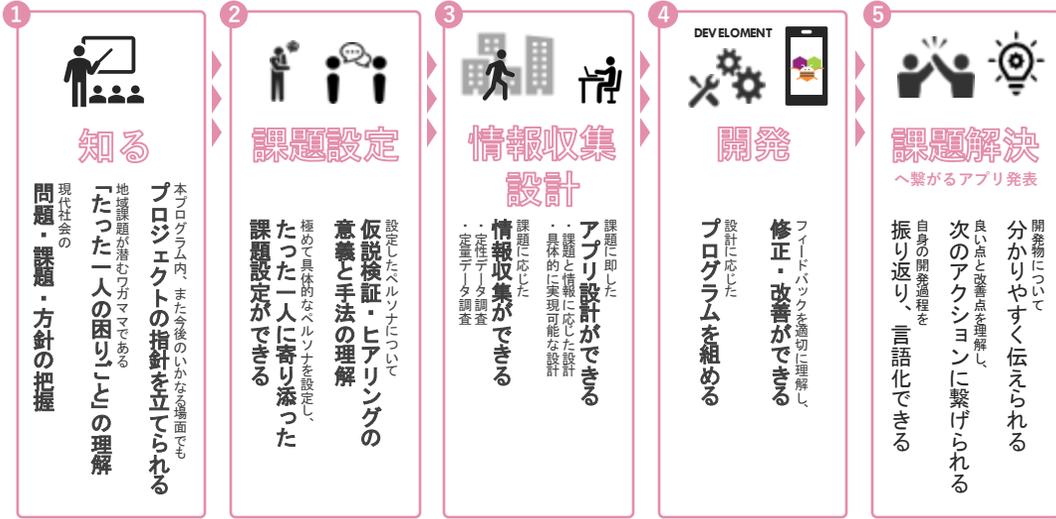
たった1人のワガママから始まる

地域課題解決アプリの開発

地域課題解決型デジタル人材育成プログラム

Wagamama
ワガママ
日々の生活の中でできていることや
我慢していること、
こうなったらいいなと思うこと

生徒の活動・学び・成長



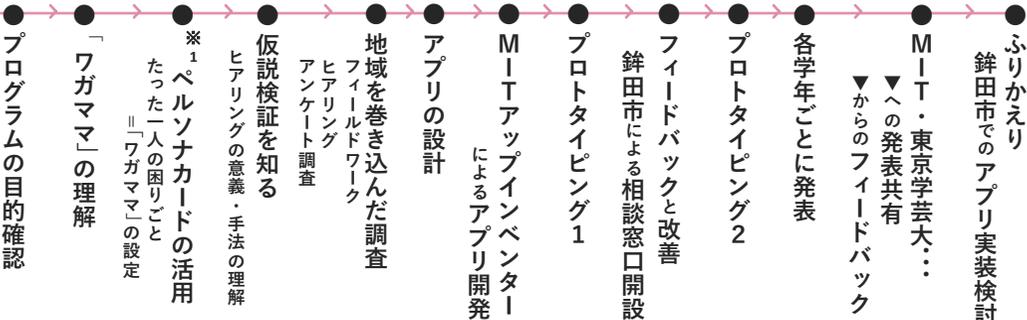
A 課題発見力

B 主体性・チャレンジ精神

C 思考力・表現力

D 仲間と協働する力・判断力

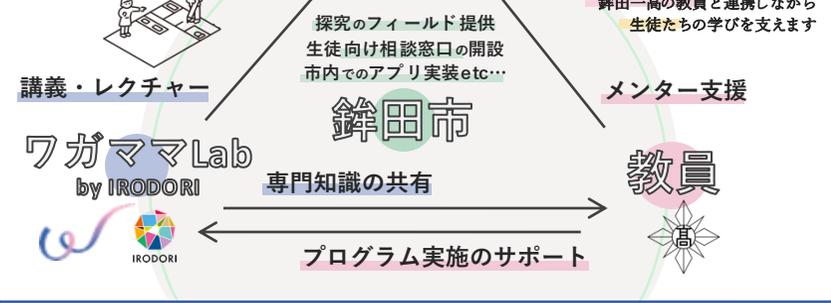
本プログラムで育まれる
生徒の力



※1 ペルソナカード：「たったひとりのこまりごと」を抱える人物設定（ペルソナ）の構築をゲーム感覚で楽しめるカードゲーム。IRODORI開発。

産官学プログラム グローカルリーダー育成

共創に挑む
探究プログラム



プログラム・ツール概要

ワガママLab とは…
MIT App Inventorを用いた探究型・プログラミング教育。“たったひとり”の困りごとを解決するアプリをつくることを通じて、世界で挑戦する人材を地域ぐるみで育成する、探究学習プログラムを提供しています。全国の自治体や学校と連携しながら、2023年では70名、2024年では8月現在で500名を超える学生たちに講座を展開しています。

MIT App inventor とは…
マサチューセッツ工科大学が提供する、ブラウザ上でブロックを組み合わせるようにしてスマートフォンアプリをつくることのできるプログラム。コーディングやテクノロジーに知識がない人を含む誰もが、実社会に大きな影響を与える課題の解決者になれる世界を実現したい、という思想で開発されています。200を超える国と地域で、2100万のユーザーに使われています。日本では過去3年間で年間19,000人のアクティブな学習者がいます。

高校生が開発したアプリ事例

幼馴染の受験勉強を応援するためのアプリ

Study supporter



当事例を含めた
詳細はコチラ

ワガママ
幼馴染に集中して受験勉強ができるようになってほしい

アプリ開発！

地域に勉強場所が少なく、若者の挑戦が応援されにくい環境
地域課題

鉾田市の高校生が開発したアプリ“Study supporter”は、「幼馴染が受験勉強のできる場所を必要としている」というワガママから出発したものです。アンケートをとると、他にも勉強場所を必要としている人が多くいることが明らかに。フィールドワークで市内飲食店を訪ねると「ぜひ勉強場所として使ってほしい」と言ってくれるお店も多くあることがわかりました。これらをもとに、市内の勉強できる場所の情報とマップを一度に表示するアプリを開発。ワガママから出発し、開発プロセスにおいて地域に深く入っていく機会となりました。